



須恵町のモノづくり工場見学

須恵町はモノづくりが盛んで、たくさんの会社や工場があるのはご存じですか。須恵町から全国、世界へとさまざまな「モノ」が届いています。そんな須恵町の魅力の1つであるモノづくりの現場を覗いてみましょう！今回は「ナサ工業株式会社」を紹介します。

■会社名
ナサ工業株式会社
☎ 932-1126

■会社紹介
「想いへ、挑む、ものづくり。」ナサ工業株式会社は、創業から55年、想いを込めて一つ一つ、モノをつくり続けています。モノづくりは社会を支える大切な役割であるとともに、人間独自の喜びでもあるという思いを元に、須恵町を起点に日々仕事をしています。
近年は、企業向けの製品だけでなく、一般の人へ向けた商品も開発しており、キャンプ用品で五徳にもなる薪割りである「ゴトマキ」という商品や、キッチン照明で「掛ける・留める・置く」を兼ね備え、空間の開放感を損なわない収納スペースを実現できる「UITORU」という商品を開発しています。商品についての詳細は、ホームページをご覧ください。

ホームページはこちら



今回は製造部の川崎さんと営業部の野口さんにお話を伺いました。

インタビューを受けてくれた野口さん(左)と川崎さん(右)



どんなお仕事をされていますか？

川崎さん 私は、工場内で溶接を担当しており、主にエスカレーターの外装板を製作しています。外装板とは、エスカレーターの側面を覆う板のことで、皆さんが実際に目にするエスカレーターの外観をいいます。身近なところでは、福岡空港内のエスカレーターや、博多駅のガラスのシースルー外装を含む全エスカレーター外装パネルの製作や工事を行いました。

野口さん 私は営業の担当をしており、ご要望に合わせて、弊社の工場との橋渡しを行なっています。お客様の業種は多岐に渡り、エスカレーター関係や医療機器関係、制御盤や配電盤のボックス関係など幅広いご要望を受け付けています。お客様とやりとりをする中で、より良いご提案やコストダウンに繋がるご提案をしています。

ナサ工業株式会社の魅力を教えてください。

川崎さん 年に1回希望者で社内旅行に行っています。社内旅行の旅費は会社が負担してくれます。100人規模の会社で、普段関わらない人も多いため、会社がコミュニケーションの場を作ってくれるのはとてもありがたいし、魅力だと思っています。みんなが一つになって仕事に取り組もうと考える会社です。

野口さん 入社して1年程ですが、入社したばかりの頃は、製造業は職人気質の人が多く、少し怖いイメージがありました。しかし実際は、会社の雰囲気も人もアットホームで、温かいと感じています。また、営業をしている中で、お客様からの難しい要望があっても、どうにかして応えようと努力する風潮があるところが弊社のいいところだと思っています。

仕事をする中でやりがいを感じる瞬間はありますか？

川崎さん 自分の作ったモノが、日常の中にあることです。先程

お話ししたエスカレーターに関しても、稼働し始めてから実際に見に行くと、自分も含め、皆が使っている光景を見た時「作ってよかったな、もっとこうしたいな」と思います。また、福岡空港内の国内線の歩く歩道はほとんど弊社で作っています。自分の作ったモノの実物を見ると感慨深い気持ちになり、達成感を感じます。

野口さん 通常は数週間かけて作るモノでも、お客様が急に必要となり、短期間での発注依頼をいただくことがあります。お客様も難しいと分かった上で依頼されているので、なるべく要望に応えたいと思い、社内で調整し、無事に仕上がった時に、お客様から感謝のお言葉をいただくことがあります。その時はすごくうれいし、やりがいを感じる瞬間です。また、工場の皆さんはお客様の声を直接聞く機会が少ないため、営業としてお客様の声を工場の皆さんに伝えるようにしています。それによって工場の皆さんのやりがいにも繋がると思っています。

読者の皆さんにひとことお願いします。

川崎さん 「日常生活の意外と身近なところに須恵町で作ったモノがある」ということを知ってもらえたらと思います。ぜひ、博多駅や福岡空港に行った際は、意識して見てみてください。また、「モノづくりが好き」という気持ちがある人とぜひ一緒にお仕事したいと思っています。工業系の学校出身でない人や経験がない人でも、仕事に取り組む中で楽しさを発見しているので、興味がある人はぜひ挑戦してみてください。

野口さん 私は営業なので、モノづくりに直接的に携わってはいませんが、モノづくりはとても楽しいです。モノづくりといってもさまざまな携わり方があり、一つのモノが完成するまでに多くの人が携わっています。例えば、営業は一つの鉄板から何が出来るのか、全ての過程と完成した製品を見ることが出来るので、とても魅力的に感じています。私のように未経験でも「モノづくりが好き」という気持ちがある人は、ナサ工業ではさまざまな携わり方でモノづくりを支える一員になれるということをお伝えしたいです。



工場内の様子

☎ 記事に関するお問い合わせ…まちづくり課 広報広聴係 ☎ 932-1153(ダイヤルイン) ☎ 932-1151(内線342)

- 2 覗いてみよう 須恵町のモノづくり工場見学
- 3 須恵町 文化・芸術News
- 4 災害に備えましょう
- 6 まちの話題
- 8 6月から個別検診が始まります！
- 9 歯周病検診を受けませんか？
- 10 国民健康保険税納税通知書を送付します
- 12 児童扶養手当・特別児童扶養手当の月額をお知らせします、小中学生の就学援助申請受付について
- 13 役場からのインフォメーション
- 15 いきいき健康すえながく
- 16 若杉クラブだより、俳句・川柳
- 17 わくわくデイサロン、消費生活110番
- 18 粕屋警察署だより、みんなを守る119、商工会だより
- 19 情報いろいろ
- 21 若杉クラブ 第2回 高齢者学級のお知らせ、認知症サポーター養成講座のお知らせ
- 22 図書館だより
- 23 ハッピーバースデー、乳幼児健診・さんさぽカレンダー
- 24 まちの情報カレンダー 休日当番医、水道指定業者 アザレアホール予定表他
- 26 記念上映会のお知らせ、オアシス運動強調月間、「スマホお助け窓口」を開設します！

今月の表紙 災害に備えましょう



今月号の表紙は、梅雨時期をばつと明るくしてくれる、元気な仲良し3姉妹のかわいらしい写真です。梅雨時期から夏にかけて、毎年大雨が降り、災害が発生する可能性が高まります。特集を参考にし、早めに災害に備えましょう。

関連ページは4ページ

須恵町 文化・芸術News

「雨」にまつわる資料の紹介

6月は梅雨の時期です。旧暦では「水無月」と呼んでいました。日本は雨が多い国で、古来より雨と共に生活してきた日本人にとっては、雨は単なる自然現象ではなく、生活や文化に深く根ざした存在です。久我記念館、歴史民俗資料館に雨に関する資料が保管されているので、1点ずつ紹介します。

1. 須恵焼 雲流文鉢(文化十一年 個人蔵)

町指定文化財の須恵焼です。今から約200年前の文化十一年(1814)年の作品で、久我記念館2階に常設展示しています。内面を二重の圏線で3つの区画に分け、口縁部に近いところは雲と龍が呉須で描かれています。空を呉須で濃く塗り、いかにも雷が鳴り、雨が降りそうな空の雰囲気です。一番中央に描かれているのは鯨です。



2. 和傘(昭和30年~40年代ごろ)

須恵第二小学校で使われていた和傘です。現在はビニール傘が主流ですが、かつては和紙や竹などの天然素材で作る和傘が主流で、上須恵にも和傘職人がいました。84号、234号と書かれており、急な雨の際に子どもたちに貸し出していたのでしょう。

子どもと雨といえば、童謡「あめふり」を思い出す人がいると思います。この歌の作詞は、柳川市出身の詩人 北原白秋によるものです。ちょうど100年前の大正14(1925)年に発表され、「あめあめふれふれ かあさんが 蛇の目でお迎え うれしいな」で始まるこの歌は、日本の歌百選にも選ばれています。

蛇の目とは、蛇の目傘を差します。白い輪の模様が蛇の目に見えることからその名がつけられました。実はこの歌は5番まで歌詞があります。興味のある人は一度調べてみてください。



☎ 社会教育課 文化財係 ☎ 934-0030(ダイヤルイン) ☎ 932-1151(内線603)